拾子集

春

へ 利 5
1969
1

へ5
1969
1

竹亭本右

やまと人は人の高事を腹より
和歌はこれをたねとしてかのも
首也のひとくされて舌はさえ
銀亦あちらも人よりは空腹よりそ
此んのおもてはこの也しの色に
卧高の書をさし王経の首とかへ
ました上あらし来てひといと謀
まさの皮あら出今誹諧は世

さの事もあらしく世をおちとなる
むかし雲より月をくもらす時のこ
うらみもあらねにとはおもひしまたかへ
さんのその中ある事もあめとも世も
此めでたきに以下物に活計乃娯とす
申すも俺心子梅盛此也風味に
あくまくされ腹のくちはいかくら
般若心経のいぬひさ種よりてさいわいの

ほとゝきすてのあまくの、いつゝゑん
をもつて世をわたるハ、しかも徳孤なら
す隣境の里こゝろよく國のまつ
りこともあつく指南車ものを
無學文の身ことゝなるをもいとふ我
こゝろはあやまちなきまゝて膝をいれ
たるのやすきにたよりて嵯峨
野のさくらをもとめて盡生道り

長者なるものゝ信心堅くして
此えにしはおつうちゆゑに世にはまた代
あるまじき世の云捨をうつくしみ
りさまにかへそへりつゝなんつゐは
精月との天満宮功とまへも寺
うちくすの世をわすれさる胸の
皺のひくなかへともかへされ
ハさくらみて萩集早梅のさく花

かるがゆへに中つ頃より其道誹諧也
久しくすたれて誹諧いはゞふ
としも物はなきまことの葉歌
をもとめてやゝく誹諧をかきさ
てあまねく流布さしむる事人
の心にまかせてあそべる道なり
手引して初学徒に入門の為
とゆゑをたすけの種の一ふしつくる

発句せへうらもして居らに
註抄を世集の見出しはそえ入ぬ
となへこれの道よりあらわしける数三
千餘句書ならべて後やはりまなるは
文其の序作らへはすなはちまとふ
なほとりあつかふしかし口調なら
其他の風情まくえにかてさやかに
うまくよみくるめきたまいしの

へとえるすめんの水のたゝきとるふゝ
くさまひかれくさよふ蛙歩の如
こゝに書を誤の海ちすまへ入へし

萬治二稔
初冬中旬
吟宵軒謹序

捨子集巻一目録
春部
立春 毬打胡木板 付縄引
若葉 懸想文
白馬 子日
卯杖 賭弓
初寅 左義長
踏哥節會 具足餅

御忌
梅
餘寒
春氷
涅槃
石塔
松花
椿

霞
鶯
残雪
春雨
去祭
柳
木目
土筆

蕨
櫻
返田
雲雀
春鳥
帰鴈
蝶
猫妻戀

花
櫻鯛 付 櫻貝 櫻苔
三日節 曲水 桃花 草餅 塩干 雛合
春鷹
燕
雉子
蛙
躑躅

藤
海棠
辛夷
若鮎
春時鳥
春草 付春野
暮春

欵冬
梨花
春月
新茶
永日
雜春

捨子集巻第一

立春

千代乃春や上古も今も松の門　此作者不知

骨路しおかしき時祢は春　良菴

改年や海乃筏も花の春　肥前朝鵡子 如自

春立と以ふ中二夜三ケ日　凡舩子 定重

玉乃戸や出入一日乃ふは春　姫路住 一个

見まはすや両目ぬす颯揉ゝめ　勢州松坂住 三信

あら玉や年乃緒ごけは術の経　姫路 三吉

假名ぐるねも春名ひく出るに試筆は　内海氏 安重

作る出も力の大服乃茶碗は　伊安氏 信徳

薬子ゝにはきん当いの類は　佐々木氏 道繁

君の代や以ゝ江戸あるぬ店代の春　播州曽祢村住 吉光

大内や源ぜん聖代乃君の春　大坂住 為昌

治まりし世そめつは春まかりゝ餅　加州住 正種

廻る年や速玉乃男は祢の春　紀州長濤石倉氏 一入子

人ハ一代縄来代乃かほ季ぶり　堺住　頼安

書初はいそふや一家一文字　肥後熊本住　宣範

たがねさちちやとまの川さけぶ風　進藤氏　世耻

一番まかさるやくたぬき門の松　大坂住　本也

すゝわてやいのい息まる初ゑ餅　後藤氏　可参

白月はなるりふ年や君の此代の春　播州曽根村　未卜

年のうちもかくやと於すの試筆かな　加州住　因元

ひと門年やとるふみるふ来さけきの春　伏見　友世

四方ふたどかるところの盛の此代の春　草津住　重道

うぐひすや筆一本をまねる年　勢州松坂住　交友

浅草のいそひそめてきはき𪜈　堺住　成政

大あくの茶をぞ去年かくれかな　窪氏　行貞

種俵や浴場をとりたまめ来　大坂住　禾刀

還暦の翁やぐ年乃くすり酒　草津住　如三子

世もやや代もいきてをのぼ君の春　大坂住若林氏　良久

あらたまやげに猿廣き丑の年　妙法寺　素桂

春一門寄て佐ゝ木や弓そろし　山口氏　栄之

門出やとんの風にふく河乃丑の春　肥後住　一帆

初の春やあまの川まて地を注連傍　姫路 元武

牛ぬ浮んの法いちこ成やけさ空　高橋氏 信家

廿八乃年
海これ今年二十八宿の星佛　懐恵軒 離雲

此神ハ額髪ゝや花よ手　江州彦根岩脇氏 正次

元旦巳年乃ゝなちまさきて
國去年ことしまた田ゆるえ家　草津住 正盛

古玉ハ戌とれ分そ敵下そうにや　備州三木氏 之利

目出度国の瑞穂さまはや万々歳　備前小林氏 時明

奥ゝハ先雑煮んも喰子年始　大坂住調菓軒 貞富

白の血潮とる祀神先や世乃年　同 内藤氏 有信

かざり縄も吹かるるとらんけさの風　三川吉田住 長春

門雲ハ富士乃万木乃かざり哉　堺住 永政

門松乃緑茶年ゆ太古月　吉野下市住 正圓

名ことはぞにごりて不二我文字哉　大坂栗本氏 義純

三男の花と花てや若ひき　堺住 忠廣

むら人従ていはふや飲社微正月　播州松浦氏 意頎

祈おこそ夜乃引あまやゝ年始　濱地氏 宗勝

若水くや歳引ましき丑の年　伏見住　正房
瀬をこすや家ハきの子乃家の春　兵庫法蓮寺　本住
折や鞍めゝ花川ほて松指子　大坂茨山氏　友之
佐保姫のよしや出てむ花かけ　安心子　安光
蓬莱ハ好き恩をにぎんたんぽ　大坂住　茂昌
喰つめやいろふ志ら梅乃かちんもり　摂州堺住　清長
子乃年〻
吸物や白津乃孫乃としの春　三井氏　近次
上ハ仁儀下ハ礼儀や治代の春　尾州中村　泰遠

鶯も海るゝ初春を風そつ孫ぶ　矢作氏　末次
冬とし父とて家あや志ほ浅き門さかえ　江戸阿形氏　先加
こきりてとおれ店も世の中かさり竹　堺住三味氏　宗久
かしこまりみるふ立たるかれ顔哉　大坂住　正貞
門松葉なりし姫乃まつ本ぶ　江戸得松子　拙口
世を就て鳥追来る風年始ぶ　勢州松坂住　口任
むすこ乃許とり元日哉乃そ
仕合もよきの方より元日の朝　酒詠
三の乃治や宝家大平店代の春　竹ケ鼻後戸氏　一意

ちえてけふ三ケ日本国中民　播州餝斗氏 栄武

酒の名や酒ゑひもし香華　濃州錦織住 正春

ともきとて人ハ加て世ゐ吉事に　奥村氏 庸之

南都真福寺にて

ちら葉さや祝大ふくこふくし　吉見氏 忠次

ゑ子来るハ挂りまわ年の矢筈に　尾州住 之也

いぬ乃年変の元日に

年と日ハ去て二海大ろ神の去　尾州伊茂氏 實次

人ちとに家あに出し巾乃と閑居　稱好軒 慈敬

蓬莱の緒に海さこ而流ゞ来　播州餝广住 栄家

梶原かゝ矢箙乃門にかすみに　加州住 乃吉

難波え茂芦に加書子に年始に　大坂住 友清

書初の料紙も為に子並に　推庸

一夜越て寝た迄と称ぬる申哉　江戸住 義昭

餅ハかゝ家の蒔絵の松と竹　黒本氏 学鵜

聖君や廣きおほんめくみ代々風去　姫路菅原氏 三春

文字も達者筆にけふけ吉書哉　江戸住 高備

ゑ子祝へ菖地より捧しひくき海め　河内小野氏 定信

治代とりておさす鞠包丁や弓始　佐糸志加久氏 俊安

門並乃梨多や同し御代乃春　大坂児玉氏 貞友

若とらや三国一盛今日の春　山下氏 竹葉子

年治のひろまき判新乃春日哉　阿形氏 直斎

門並乃内りくちきせや佐保姫子　濃州住 塵哉

作くみ井桜を能ひらくめ豊年始　姫路住 秀昌

戊と逢乃尾やくひすりるは風呂　堺住 永政

法辞きける人のまたちへ六

ま様りめ幾世屋んとりの秋哉　大坂住 芳昌

国乃花めでたし絹もまきや四方の春　京田氏 政時

ほのめくや君なるすてし花の春　長谷川氏 一元

播州や完粟(シソウ)如春昌乃代代の春　播州完粟住 正信

大かくは四海繁昌の茶湯哉　伏見住 友理

若恵美酒いわふ乾乃すゝ縄哉　肥後住 一帆

来法安達始を祝ふ世界の礼　伊賀上野住 一妙

としおそひろそつまふ扇哉　中井氏 正貞

元日乃天照たゞふ白旗や茅ぞ　大坂住 如春

大かくは菜をえるの灾哉　伊賀上野住 如電

伊勢乃亀山在所画てうしに

蓬莱の亀山や在所たりし梅
伊与松山住 一景

年玉ハ扇子でさへとすゑ広に
尾之氏 正勝

霄此亭画ゆりの光をそ

難波津に咲の画や花乃春
宗因

火服を汲そ由ちを冴つめ葉に
勢州松坂 三寛子

春乃来て嵐も流くやわかなかん
内海氏 政故

去たるとやあふなけもちよ代の春
濃州大垣住 清里

去かまねや幾年いく世花のやる
大坂住 徳懐

新宅に移住る人の許へ

年徳も久しかれとや酒さんさく
江戸住 親時

あら玉や宝卯ちらハ半玉春
大坂玄毫軒 本也

廻文 辰乃年年

永記日段辰年とひに老気に
伊与松山住 宗利

擢井此家に流ゆる男気をそ
世耻子 利政

絮ひころや流のよいて井此泉乃
去田中氏 正元

ほも気ぐにかけつかさなよ試筆に

年玉やハ祝して発端おこし 米
梅州住 弘哲

いさくすくておろハ年毎に吹こ篠　大坂住 貞富

書初や一筆鶏旦酉乃年　照不京田氏 土鐘

ちんし花乃婦君ちれやさ那姫子　之就氏 直重

三乃神ち威や月星氷の柱　照不山口氏 重笑

遊しさし照てらうれ以ふ氏玉　備前住 良菴

住く指も三乃をし光の礼ふ哉ふ　姫路住 一イ

一雛乃屠蘇で酒か加茶ふ　同

おほし光守菊く年や代々玉　風船子 定古

来る玉ハあ門万治ちれや東山　同

菜子彼殺ふきて玉に礼医者ふ　同

三木と出や実ところ殺ふ舌に出　内海氏 安重

正月よハ子もつあすつるまち名ふ　同

天性ふまこくしちや四方に玉　伊友氏 信徳

巳乃年ゝゝ

ひらき三威こよみ死年乃始ふ　大平氏 伯真

玉とふよかんぞんちよし門乃雲　三刈吉田住 愚侍

元鏡や千万元日胡おまるひ　三刈吉田住 可尋

世代々よ門君の玉出や水銀　姫路住 三吉

葉

いそひ晦や大服乃茶此和尚月　伊予松山 一景

三公やくきやうる手小頂禄　堺住 笥る

いそい入海いつせゐや神ん玉章　大坂住 良久

四方拝や天下長久乃祈年始　泉州貝中住 霖目

手細乃正直なる代や一文字　大坂住 為昌

来る春や東来たる宝舟　長谷川氏 一元

慶くて喜やかれいのうるひつめ　福井氏 宗次

治まるやおまる猪君子乃代の春　姫路菅原氏 秀昌

祖うめや乃かさ春乃名がら川ナ　肥前氏 照全

君のあまず見ほへゆるや弓始　何方子 倫貞

難波津やおもと吹まう立為此年　大坂住 三正

三ケ日雖二はるふて五はしろ乳　田氏 成遠

年明て立春を

若き年も二あひなうと鶴姫春　大坂濵田氏 春倫

年乃緒ととりて明るの乃ふの春　勝栗茂木氏 任巳

家まあれいとほりるも明福寿草　大坂住 是等

廻文

氣ハ去来る氣のとや色紙門乃照　坂木住川中氏 後盈

泰平乃世哉あふ花ちりて

君の代や歯ことたりて神風哉
倪心子 梅盛

毬打玉胡木枝
付綴引

男女よろたをこはく流らやつき心
姫路寺沢氏 義知

詞乃玉打まうむるや毬杖哉
風船子 定重

ふりくにかけてうるゑや玉たすき
江戸住 林康

玉哉あるでうけてねのするとも哉
石橋氏 重知

うけつ箒つやわ相子枝乃拍子哉
小野氏 正則

玉比にうちもこけ歯なる子とも哉
窪氏 行貞

夢の子や孫まで胡児まこことにまで桜は
三井氏 近次

いけのにか毬打ちりやみきたま
阿形氏 直入

玉打ハ三成まあふる花月かなれ
江戸山手 元勝

若菜

抱ねれいはらぬるの葉ちこうさ哉
勢州松坂小村氏 直秀

切と摘て雛行々行の佛乃座
勢州津住 直政

捨し世や赤子いとりて仏の前
勢州松坂住 是堅

七のあつかひするハ蕪の菜賣に　貝舩子　定重

一汁や一さい宗ま佛乃座　膳栞朝思氏　照全

七種千億ふ味や五形五味　河州住　清光

とくあち役喰を右京作わし　姫路吉田氏　利重

十二種を作酒乃肴れ七種ふ　加海氏　安重

摘えてや安置のする仏の座　草津住　重道

とふ書ハ是あちかれの根せわに　勢州松坂　永学

野そねし葉つミや拍子七草菜　龍氏　勝成

七種を打くはさや山表菜　伊与　一景

つきさハ弥陀の海り仏乃座　肥封氏　依義

ぬえもち絶しく女や世仏乃座　姫路三輪氏　延貞

賣人や声ま里列ふ菁菜　日州高取住　催笑

玄川仏也や孔雀佛の座　姫路　政次

咲かしこを汁のまふする料理　窪氏　行貞

宮ふそれとさふ七種や七歩もしる知　肥後住　金門

懸想文

懸想文や思ひ深さん筆の海　三井氏　近次

人めにもむ恋のふりした懸想文　三川吉田住　愚侍

賣も買も縁そえらし懸想文　伏見住　友世

うわなるか代のほまみてたの懸想文　姫路村山氏　次平

戀せしとみゆるし白布けさの文　大坂住　宗清

懸想文賣あまてやさらしく　姫路住　義知

白馬

引ぬるはあつされ何をるにそ　月船子　定重

白馬もこかの汁出茶の哀かな　内海氏　安重

白馬平ひら番よろこびれまゐらしめ　姫路　一千

地道もお海る大代の白馬かな　伏見　友世

子日

小松ては半も子ならん日の遊ひかな　肥前佐賀住　如友

塩も又引やる子日の松備かな　山口氏　栄之

出なしてみの日れ松やちんふ母　伊与　一景

松ひいて恐れよ良する子れ日かな　上有子　政時

大將や千本松ミ引錦山　江戸住　自笑

卯杖

八角志爾五尺三寸乃卯杖かな　伊与松山住 宗利

杖桜して可ミ代経ふハ卯杖かな　凡船子 定重

縣石

たのしみ乃あて三代と千君をあつめし　伊与白 一景

縣石やのほる出世ハいきれ田会　凡船子 定重

初寅

初寅よ似さ大石や合ふ海やま　一元

初寅よ年れあまてもこ多門　凡船子 定重

正月八日初寅なかり乃年にて

噂こそ高き乃子初とし薬師　姫路住 利重

絵ふ吹ハ初とし此尾ゟや七面の雪　内海氏 安重

ふるかつれ今条る初寅ハ旧足かな　愚心子 正勝

左義長

君か世そ烟出しぬやはやし長　大坂住 貞富

はきちやう竹をとらしてやかつし　伊与松山 宗利

左義長をあぐるとんどと踏足拍子　大坂住 友之

陽にむかふ火木は松のはやし哉　江戸住 蝶々子

よてらやすとんどやはやしまたてんく　姫路住 一イ

左義長よ子宇孫常たすけかな　大坂住 薮昌

えやせくやらめて民の病とんど　三川吉田住 愚侍

踏歌節会

霞立里こそ今や篠の葉やかざし　伊与松山 一景

ぬけ拍子するや踏歌の節会利根　大坂住 禾刀

踏するも行そ踏歌の節会かな　姫路住 一イ

舞をまふ節会音数の踏歌かな　風船子 定重

具足餅

如火するいまとえきたかひの具足餅　大坂平田氏 如甚

かつきをも立ていはふやくそく餅　姫路住 秀昌

食せぬ乃人はおとしのくそく餅　中嶋氏 貞晨

たまよまうぬつけばちぢまる具足餅　右尾氏 忠俊

具足餅むかひいはふや元方あて　伊与 一景

まし兄ハ何とおもふの具足餅　稱好軒 慈敬

くし時や乃と論よ風くそく餅　世船子 利政

おそくと取まそ祝ふやくそくもち　大坂住 鞭子

敬太刀やかざるく祝ふ具足餅　寺本氏 直政

算用もかんといふくそく餅　江府坂本住 俊盈

御忌

法然のまうで参るや黒谷浄花院　伊与松山住 宗利

法然参堂寺や佛法たんご　凡船子 定重

法然の布施や仏法あれハ世法継　播州 幸壽

菩提心や起す一念の法御忌　江戸 恭次

よふく人や足も運乃法然詣　播州宍粟 玄甫

法然やこれ南無阿弥陀仏の来光　大坂住 如花

参りてや拝むもちちの為法御忌　三州吉田 愚侍

霞

目に仏も芽すハかすミの衣かな
濃州千村氏 一歩

春の日乃晴またぬハかすミかな
進藤氏 定良

天ハ立て下ハ定まる霞かな
江戸住 恭次

毛衣の猟川ひく春かすミ
河内住 宥俊

衣裾をそひ花摘とや夕霞
伊東氏 良里

春雨ハ霞あらしの清めかな
大坂住 清次

十分に立る霞や二日酒
大坂住 祐之

高き山まて登てミゆるかすミかな
井ノ口 恵祢

冬と春ハ中川ての和や雲霞
大坂住 宗清

去人眼病を煩るを見て
霞晴守しに揚る目ハ志やかな
備后三原住 給念

梅

遠目にハ梅も桜よ二月かな
大坂 茂昌

莟ぬとも額までは於せ梅の花　内海氏　安重

咲バどこも大度至地の梅の花　慈敬

東風もおもくされぬのあらし　播州今津　不定

去年つきし指やふた花の兄　南紀　利番

星ところや南枝に辰梅の花　伊東氏　良里

蒦家斧付の役古木や接ぎ枝　備前　後安

雲の花の門と梅乃窓ひらし　江戸住　高埔

孫までもの春や継木も花の兄　備前　良庵

早まさハ継梅平のる日足かな　殿村氏　敬徳

七十余里白へ文王乃園の梅　播州平野住　一重

東風の世に白ひお約笹や宗梅　三井氏　近次

経冊を賜給の新乃輪な梅　伏見　交世

角それの是や其まゝ輪有梅　嘉隆

柳桜松乃尾に咲く梅津に　長谷川氏　一元

うへるゝふ小壁の松やさん莎梅　中野氏　一直

継梅の一かたく園の白ひかな　嘉隆

白ひすてま休みそとみする梅ぬけ　勢州津住　直政

笑ひ白あてはりれのすい梅の花　生信

むりと折ゑすやこほるゝ梅花　重尚

小野やかふ梅乃花ちからもよ

南のわらく法楽

ちくはるや現世安穏神乃梅　梅盛

鶯

鶯の笛はあけ世とかわこゑ　勢州松坂　三信

鑓梅よ傘や鶯軒口法花紀　同子　龍朔

梅暦らくらく手すゝふ来宿日　熊野住　一入子

鳥列し立のや新鶯の金言る　濃州住　塵哉

梅ひ鳥ハ地主入ふや法花経る　草津　重道

鶯の声や早鈴早拍子　長尾氏　俊定

一宮たゝてえの声聞かくゝひ　膳所住　三守

妙文をうやまふ名聞の金言る　尾州山口氏　正久

鶯も声乃よし声や山の奥　三井氏　近次

鶯の法け照恩や梅乃えたへ　草津住　正盛

らくらく手も禁裏の外ハ里言ぬ　大坂石津氏　器上

うくひすの噂きくきや花りけ　安重

鶯の声ほらしや梅こよみ　大坂住　友清

鶯乃相話や柳のまゆほくす　於列天満　正俊

梅の枝千啼鶯や越天楽　大坂住　宗清

万木の季に鶯なや拾く琉法　姫路住　義知

鶯や惜ちさく鶯やちらし経ふの　江戸住　恭次

鶯の三の乃内裏や十一乃声　於列住　正直

阿形直入斎乃痛快寺乃
帰りて

鶯舌乃口ぶりはよみ紀神楽乃　梅盛

餘寒

咲花の唇らき寒き余寒かな　松坂住　三信

とききずすまにりんも見え余寒かな　正信

片へ海道う捜寒片の羽音かな　三井氏　近次

春もまろ火をあふりては余寒を妒　姫路住　次平

春やまぞれゆる毎日毎雑寒く　凡舩子　定重

嘉隆云上京乃帰まで春

宮のまへ名れて
みなあすやはえか雨ふらずと也　在京　梅盛

残雪

残る雪もすこしハ山のあいそかな　竹井氏　常久
雪残るよ水残湯よちまするかな　江戸龍氏　一景
雪仏のこるやふごの春の水　姫路住　政次
去年の残雪や茶たてゝ白むかし　江戸山手　元勝
雪ぶかき残花とやいはん春の雪　罡氏　成遂

下萌ハまだきえすそこの残んの雪　江戸河欧氏　先加
どちへやらうちとけもせで春の雪　鈴康　業政
残花をも槿花とちらすハ春日かな　濃州　塵哉
春日まや雪も華したむ伊駒山　大坂住　伯貞
雪ハ悪春日之弥陀乃ひかりかな　恵彌母　正慶院
残も山もひとまろまちす雪かな　大坂住　定長

春氷

氷消てう亀よろこぶや池乃面　大坂住　敬昌

日を追てひろふことし厚氷かな　三州岡崎住　正静

雪これバかんの氷川るふぶき　播州宍粟　道益

ふの風くえくく庭うゐんとや　肥後住　金門

逢すがふとけてめで田井かな　讃州高松住　道政

春雨

春雨乃あかり窓よりさす白也　下のお　台澄

かゝとりぞかゝ結までや雪淡雨　肥後越年　長辰

月やおもね雪や乃しのよるの雨　松坂住　三秋

雪国のかれた所迄も深山かな　播州平野　一重

人ハ内乱雪国も又寺本かな　山下氏　正信

雪国のたまるハきよわかの塩かな　秋苔氏　貞就

涅槃

二月も闇の世となる涅槃かな　備前住　時明

釈迦るみ乃ふ弟子達や師よ別れ　月船子　定重

涅槃まいらう縁乃鬼もなきかな　大坂住　義純

語り見成後世さる孫らん屋との後　姫路　一千

生身に仏月涅槃の絵像かな　高野山 杏山

生あるハ別れてや啼くぐる　伯耆 良菴

涅槃像みけるく拝や如来逆　姫路 三吉

おゝめ諸法實相うきいの涅槃門　肥お 如自

草木もうけつれなゐとや涅槃像　肥前住 素質

二月十五入滅日乃あすけきの礼　江戸住 長尚

まゝれはいあらる詞の種そんきかう　江戸住 高輔

涅槃請よ山や中の一中二月　川内住 之信

天竺年尼も身は仮の世乃西方便　大坂住 禾刀

春祭

心字よ春よ芝て三の鼓や薪の能　姫路 三吉

撫三の草かまは笛やたきつ火能　播州姫路住 正林

折そやせとうくとるハ薪の能　一村氏 良三

深てまるや噂やするいのふとるも　姫路 一才

石塔

石塔に小の花れ團く里座頭　貝放子 定重

石塔を祭る日やけふ時めくら
与州松山 一景

石塔に加ふ歳年忌や生仏事
小篠氏 一之

石塔を撿挍従ふ蓮花かな
伏見住 重尚

石塔乃あとさきや上座下座頭
三川吉田 愚侍

柳

是とて若夜風吹しらや玉柳
勝福寺 行哲

みけやとる池ハ水田む米柳
懐恵軒 離雲

見えてゆる柳や枝をとれの庭
貝船子 定重

かゝり衫や人も伝つて比川柳
江戸住 泰次

地より生ふ出へさかさま柳髪
大坂住 貞良

姿手かる地風ハ柳の縁なる
尾州住 勝重

風よけまれ菖膳よするや米柳
備州曽祢村 吉光

霞や志ての八十八夜の姥やなき
肥前佐賀 忠利

切鞠乃と冊る柳やひと加ま
勢州松坂 安友

加ふ才毎し清水揚枝や米柳
濃州大垣 光重

飲茶と云も柳のいとくちか
官停氏 重利

雪折まをよめや果報ふふ柳
□州 政勝

風乃手にまきこと出すや子ず柳　金谷氏 友光

告日殺川のちる春糸柳　三川吉田 可尋

此ぐ東の糸や背具の笛やちる花　阿根氏 直矣

讃乃柳も人乃木ちから　伊賀上野 如電

瀬ぶみ行枝や流るる川柳　京田氏 政時

さつやかの月は照らく柳髪　肥後住 一直

爲しし大風ふとせこめ柳かな　江戸住 高輔

松花

聖廟法楽松梅千句ゟ

童形の新向の松乃みどり　姫路 一夕

あかいつも西東の松やみどり翠　風松子 定重

まして玉雛や志つる木木を芸　信徳

木目

呼ば椰のこすゑやめ花三月の山　伏見住 菊枝

茶碗の木ともこゆかや出月入月　江戸 泰貞

双六の目にて貝は世す書れ木こ　小谷氏 貞交

椿

ちりで風のまひ移りせこちる椿　姫路　一千

よそのつる木陰や人のまつりこと　江戸　蝶々子

花秘苑の如意寶樹木玉椿　大坂住　宗清

ちる玉椿のなかりといはんさうじ　傍　阿形氏　直矣

太筆

墨太の筆やむかふ墨かれめ　江戸山手　元勝

よく出ハ見字に似たり太筆　播州赤穂　尚昌

書ぬ先雁や太の筆たまり　大津追分　不雪

筆道や兎の毛先太の筆　勢州津住　直政

墨ありてひつ身のとや筆は花　三井氏　近次

餅つこする音絵の筆や太の筆　川端氏　水巌

荊あかりやせんのきれあて太き筆　福井氏　宗次

ほくしそゆうや筆の先や乃山　組山氏　徳懐

蕨

あさかゝこほるゝ露の薇かな　播州完栗 正林

おく山は皆うしろなる薇かな　風虹子 定重

おりはたく摘出やむすひ薇錦　松坂住 交友

科は得なに縄かるほりかひ　播州完栗 正信

千年の松乃下薇やなにそて　平吉

紫のちからとやむらさひかな　泉州 森月

勝もなもおりく文ある薇かな　播州高砂 元賢

山路そゆけは嘆なまの若薇かな　内海氏 安重

作ことゝらや是るゝ薇なまゝへや　笠尾氏 重後

山の神のみこしまいりや薇の手　与州住 良信

薇手もたらして縁なしや八百姿そ世　清水氏 好勝

つれおりておもてや猪とぜんまい　茅原氏 信秀

早薇は神手におくらて宮のかな　坂本住 俊盈

山焼よなくたくいとるは薇かな　思村氏 依次

薇手なきてもなく毎拾涼山かな　卜有子 政時

汁椀にならてとやすき薇かな　長谷川氏 帯文

雲におれぬ手月をさはりや下薇　山下氏 竹華子

花

冬冬のは花乃発句也つもりには　凡船子 嘉隆

冬梅香よのりやすゐ接木には　定重

読て草子まきうすくなり花よ宿　内海氏 安重

雪道乃そはの花ちく嶺乃月　勢州松坂住 三信

人ごころ移ら所これ皮と月と花　肥前住 如自

数るはいうそよおさまるや花は待　姫路住 政次

まんさくの風もなかりけりやふうつれ　江戸住 高輔

とく出ぬ見よと経よ隠しし花の紐　良庵

足はまちて目はほかへなく見には　世耻

ほのくと切るは花はまるか心かれ　大坂住 義絶

廻文乃まつや言葉の花車　江戸赤坂 水元

見るふ人の志なれ次乃しや家風　江戸 蝶々子

ちれはちるふ心乃ちや浮同心　備前 時明

咲ははなも人の氣も商る嵐には　坂本住 後盈

あいも目て見ふふもなかりけ外　山口氏 栄之

ろくよ居て三保花筆や膝るとし　伊与 一景

花も猶よく見ゆの縁の寺に座　草津　慈敬

ちるをとゞむるはよしがん莚乱るゝ　松坂住　重道

入相の鐘に魁するや花の本に　濃州　文仁

哥人乃こゝろ緩め師走や月と花　濃州　慶武

花と風の中はすれ〳〵の間の札　大坂住　貞富

縁ころひさく花見志の道やすわ枕　山崎住　卜琴

咲とつけばとはきからはき入志旅乃　堺住　重利

花も猶よく留山やこゝやま花　飛州高山　可庵

折人をとめ見えや寸揺木に花の枝　大坂住　如喜

花咲けば小さき大原や人乃山　大坂住　納信

笑ふ花の数や梅くおのれんき　姫路住　棒心子

床の花に猿も峠やよ世は満ち　江戸住　忠重

奥山や雨露乃とんこう花盛　伊東氏　良里

花の露は笑ゐて乃ちなみさかな　山口氏　一重

くミ折の露は一てき乃花軍　伊勢津　直政

まけさんに蓼の亀山の花乃風　大坂住　交清

抱るは花の軍に目れらもな　江戸住　梳交

目乃佛宴にやすえん山花　大坂住　禾刀

えのおねや無縄自縛れ花の陰　三井氏 近次

花の色ちらひとちそや春れ雨　金谷氏 友光

ほむる口さまりけり詞や花盛　清水氏 愚心

高上乃らふと云題にて

酒乃かんも花見もよしや馬上盃　龍翔

四王天乃一色花あり乱花ちらり　大坂住 良久

吹風をあけてみるや花の枝　福井氏 宗次

一枝をあらんあるたなくれたる状　寺本氏 直政

首目も数よ見た花のちらす題　菊池氏 貞盛

いはやうや園乃香ありや花盛　姫路住 正舎

高藤原もはや採挑雲乃こと　平吉

編笠をきて三原人や花曇　田中氏 正元

舟よ火焼とも白見えての心　窪氏 行貞

抱いそね花もちりけるし佐やま　小山氏 重尚

枝いらぬ幕いらすて花の陰　原田氏 政時

木枝切い斧の木陰て花乃宿　矢嶋氏 末次

桐咲やまつれ出雲神の花　秋葉氏 貞就

花よ桜ひまもいえいよう稀す作　濃州 可貞

出ねやに風寒こめしや花盛　姫路住　一幸

内のねまれん乃花やもらう三ヶの　伊予住　良信

嵐より猪の師子武者も花軍　江戸住　一身

来て見れハおらぬそ折そ花の盗　播州　秀昌

花の中へは山居も市の住居かな　阿形氏　直入

京も小路に書花の筆始て　山下氏　竹葉子

縄垣や心ゆるめれそれの花　片岡氏　政長

こほれ花はまさいわらん酒数　堺屋　元重

花に目ハとられまし花ちらしわ人もなし　阿形氏　但次

お捨れてもおうそ花しくと花の風　菊屋　道入

床て見る花や一時栄えの立姿　榎氏　友廣

丸讃見えや姿乃それの見る人　田原氏　重治

いやとゆ心切て見れぬや花乃垣　江戸住　高輔

月も月いや又花も花見かな　大坂住　光正

垣こしやらし従ハこそねの花軍　加州住　日元

こほれよい花ありもまろ也とふて雑　江戸住　柴庵

老武者の風まちてめる花軍　泉州　一歩

花のゆふうつ本ハ替風接木かな　大坂住　正武

落花に三原や心ほそくも唯一本　播州　尚昌

咲花乃下に茶之湯人も哉　松坂住　交友

ひとごゝて添花にうつろき三月哉　草津　正盛

見てみぬ摘やかんぬしならぬ花盛　座尾氏　重俊

人質にとられてみよし花箪　大坂住　友清

三原人も花見風に残りや目哉　大坂住　正次

本坊吹く花だいの府風哉　伊予住　宗利

法花宗等にて

法部こしは法法の花ぬ節哉　座尾氏　忠俊

病中祈祷に

悪風をさのけと花の勝不動　奥州米沢住　秀元

たわまれは花の下にやすまんすん　大和田氏　武門

花に鐘や往りみとすぬえ里也　大坂住　良庵

ゆかしい風の手くされ花盛　友之

光陰と風や矢合せ花箪　山下氏　正信

座しきをやうけて酒の山哉下　小村氏　正則

鏡台も当座おきうし地主花　播州住　華雲

花皿や都乃すまき金襴手　伏見住　重尚

忘られみするし忘れ形見し花の枝　田中氏 元真

み孫ど年よ花や数々風待の春　大坂住 伯貞

香ハ四方ニ花ハくだらね風もな　尾州住 清親

永日も掛らぬごとくなる花見かな　肥後住 長辰

名るなりハ不如帰と云ん花の女　紀州 勝秀

咲花のまうひ声きく自ひ乱　大坂住 貞因

花筆走りのけける花もまたか　姫路住 三仍

何ゆえはめつ花ハ天然地杯れ　江戸住 不卯

花ハ山ある起て咲花ん比叡の山　濃州 木端

花ハ雲感渡肝よ名所かな　嵯峨住 子愁

原まるとハ町衰ヒる花や嵯峨の花　下嵯峨 正令

庵の下雲来衆や花のもと　下嵯峨 正金

て風まうに幾す詞の花乃浮き　下嵯峨 玄棠

玉ちるや花ちあく見え帰鞠　川端住木村氏 安信

蝶なるて胸も花ゆく落花かな　下嵯峨 水巌

貪俺乃花見ハ一瓢に自由かな　肥後住 一帆

すゞみ目成応る花四方の花盛　播州完栗 玄甫

神木の花入やよ紀筒歯もち　濃州大垣 木端

花鰹か花ちらしけり二當座　江戸山手　ノ志
一輪もさく風情捨花鰹　播州饅戸　栄武
称ゆる花の嵐ハ去れ初日の丸　遠州中村　泰遠
遁世も名ニ汁や貪欲者　姫路住　元武
作花乃手きゝも真ハ上手哉　和州　宥俊
三味人のあふはき風ニ花枝　大坂住　貞富
存あれ花見やこちの木ならぬを　尼崎住　宇衛
出軍にうし野のほゝや絹ふとん　播州完栗　正林
雨ふりさけ蓑ひえてハ花のひも

最中乃花のあらしや松乃風　會津住　座頭
流れ名所ニ志らぬ会参の名香水　姫路住　元武
おかとまつこえてたなれを枝　姫路住　守人
わつはるハ一とんよく日に見ん水　清水寺　正舎
風ふかれ花の輪はる蝶の糸　中山氏　經寛
国ふちるまちがひや雪の花の酒　勿言孚
毛脱や若衆ハ三月出ぐはな　津田氏　一元
衣着ヒ見んハ白ひ御手のし錦乃　政祖
田舎わきもようや去年の春衣　小山氏　重尚

ちり〳〵と散花ハ盛なる時ハ未ぞ　与州　一景
人ならバちきれハ花ハ咲ま末哉　野田氏　基春
吉野も薬師堂まてそ
花乃貞十二蕚常や薬師堂　吉野山家　正信
初花成三旅ハ一日くるしさ　茨木氏　無味
見ゑいる花寺め花見やお伝楽　離雲
名ふうく題目や法乃花の波　大坂住　朝次
花と也と夫んまとくまる花額哉　備中西山　瀧頼
ふるまよしや照ま吉野の花の笠　忠継

象くふ花の時ふハ當主なりし　肥後熊本　一直
花乃長秋乃月ミ風こよミ哉　肥前　如自
終ま乃うしろ姿に花見哉　膳所住　任已
口ひ旅く花よあくいろ長七哉　嘉隆
仙人も岑や姑射山をあれるを　摂州西五百住　正至

籠乃花哉

生花を籠と計乃珠乃札　凡船子　定重
堀のくてあ珠を植とおす梅　同
花のまんと月ハ陰陽輪合哉　同

姿言葉今様ならず花此寄　大坂住　貞富

行やりて花見て帰る山路かな　阿形氏　直条

立居わるき人も花には嵐これ　同

父之廿五廻忌に

廿五乃花さや新向法乃花　因海氏　同

晴天の雨や変して花乃雲　安重

花乃雪ハ朧なる月影やらん　同

花ハ見ん梅折や匂き梅あらしの　同

烏帰好内の園茶の花乃下　江戸赤坂住　水元

三十五

花殊に手ゝ浅やなさや去此風　一付氏　良三

ざれ川と散るはつと散くや春乃風　三井氏　近次

長刀に風彼ありて人をふれいさ　江戸　桃交

花ちきと折ておれわふ蕾も奇し　坂本住　俊盈

小町もきれて居と埴風に色哉　同

開帳乃花をこそて

開身も心ゆる乎れ花に風　田中氏　正元

笑ひ上戸ある記上戸や花に酒　姫路住　政次

花に出居さゝ弁当此酒宴かな　同

猿楽乃果報るかや花衣　松坂住　三信

三風人の目も働くや花軍　苡友氏　貞乾

一枝も折も世毎年花見かな　福井氏　宗次

いく所も本より花やある花は彼　同

咲すも又うるかひと一下花の露　江戸蝶三子　貞宣

花洛とてからも見る人も多見かな　華津住　重道

ちらせへ折人ちらる世を惜む　小山氏　重尚

吹風よさ所てかくまて花軍　一村氏　良三

帰る事なかれ人酔会やのみし酒　姫路住　一幸

露ほどもなくてし花や口果報　播州西五列住　仍儀

独見んは行やぬけ時ぞ花いさ　山下氏　正信

清水寺にて

寺ハ観世音ハ花を見し花見哉　矢将氏　未次

見ぬ人の目ぞ而て三度や男花　大坂住　禾刀

嵯山寺や見ん開く花を打乃内　勢州津　直政

垂跡人はそれあるある嵐かな　大坂住　文清

津乃国鼓の瀧にて

音なきに続の鼓の花の瀧　進友氏　世耻子

春山乃もゝい笑の花乃顔　大坂川上寺氏 親房

花乃香と車軸乃雨や矢乃使　山口氏 栄之

涼草や照日の曇る花乃雲　同

うゐ若常志らす花に西よ風　金谷氏 友光

神木乃花ゆ之や人乃沾ゆ目　伏見住 友世

春風を恨てや小阪花の数　山中氏 乃重

仁義礼智信乃四ッ五句アリ

清ら福侍る

生花を数ゝ道志る仁者哉　伊佐氏 信徳

ゆゝふ花ハ義理を立まれ花瓶哉　同

花生の竹乃節志むや礼乃道　同

おのいそめむや知恵深き志つ嬉の　同

時をまもるハ信乃道なる花實哉　同

杉えれても咲ぬや花乃自暴自棄　金谷氏 友光

人乃点えれ耳百韵ニ世侍る

只此时おくよ半付乃る

生梅や云葉乃花乃かゝのき　姫路住 一千

目ハ近ふ風ハ遠まれ花乃香　梅盛

法師ふ守きたれ花よかわ行て　同

出精糸や一宗一雜寺乃たれ

里寺山陰よ菴寺まて住

古茂泙まて

見捨ぬる日らしくゝ花も果居ぬ　同

武師乃い云ハ佛六八乃願

文まて花の香句法つまれと

伝る一座連衆醉を曲て

是我無寸年も法ふやき伝ふ

無三悪趣願

三悪乃花よ其無三悪趣乃たれ　同

不更悪趣願

花とて根よ悪をかへらぬ録ぬ　同

無貪着身願

貪着我根つら忌ふや道体卞　同

住正定聚願

退かす花我こ成因ハ佛あたれ　同

供物如意願

それ見るや雨露の飲食花の昔　同

必得弁方頷

詞にもあらはれつき法の華　同

不失定意願

同しくハ居ながらうこそ花見哉　同

祇園社頭の花を拝して

神木と志風の香や法垂跡　同

花乃比山踏志侍りて

う世も世なよ見ぬうちのかほり哉　同

櫻

桜咲く吉山寺ありて彼岸かな　尾州住　種政

楊貴妃の花香はさきの南方士かな　伊予松山　一景

小法師に一枝はそれちごはこそ　大坂住　本也

山桜ちまいにふもとの花壇の外　肥後熊本　攸金庵

はなめるやはの春私宅の家桜　伏見住　重尚

垣にせよ行や志るに同いぬはそろ　加列住　因元

乃よ毎日やはて毎庵の庵ある見酒　大坂住　友之

雨まなひて雲井桜や天狗法　江戸住 恭次

盛山の庵に立とく山ちらう　膳所住 任巳

遅く咲ハ志ハ清まずや姥桜　坂田氏 不必

香車風も散花を西行桜の札　淀川 慶哉

年ふまれ名次とも待たり桜かな　江戸住 長尚

人をまて花に捨たれとそ桜　姫路住 三吉

火桜咲みぬ月ハ山孫の夕重の札　肥後熊本 宜賢

まとくあらく祠花言葉や伊勢桜　播州 栄武

花いけの深付ををわちきぬ桜の札　膳所住 照全

桜戸や咲延おちる西ふ綴りの歌　姫路 一千

綺に出し花咲見て

一年二年す三年とに書し桜ふ　月船子 定重

散ても桜やわく谷の渡る山ちらう　江戸住 泰次

下乗するハ遷宮神木の伊勢桜　三州吉田 愚侍

落るも本陰に落ちこちらうふ　肥前平戸村氏 玄与

行るに家のくきて見さうう　備前 俊安

世乃流も折よせ流き延桜の札　大坂住 益昌

花に風いう散さぬ宮や伊勢桜　大坂住 友清

咲ちるハ目こぼれもなし米桜　駿河府中 佐春
火ともすハ志ら蒲こいまん桜かな　尾州 昌徳
継木とや乃びて長種枝大桜　坂本 俊盈
花の火城ともすハや糸ざくらかな　三州吉田 愚侍
打てみるに桜狩花や下る札　嘉隆
一付うるゝそれ女志ほゝ酒花見酒　伏見住 友世
花乃兒菊桜やよしハ重さくら　姫路 政次
ぬすむこゑや屋までわきしなる桜　佐渡 良菴
貴妃ありて誰ゑのこせ手筆　大坂秋塚氏 是等

手まくらてその花と笑や児桜　武田氏 經継
露乃玉ハ何よりこぼれし児ざくら　佐方 時明
古木あらば出よ行かば米ざくら　山口氏 栄之
是ハ風乃袋からなる糸桜　江戸住 下ト
門がまへ中ま井坂ほれる紅ざくら　肥後住 一帆
みぬうちや心ほどけぬ咲ところ　播州竜野 元賢
目に付て三歳や梅とらぬ糸ざくら　下野足利住 廉傳
峯よ咲ハ高乃花家や伊勢桜　小篠氏 一之
修行してみるや西行さくらかな　伊勢津住 直政

孫むすめや思よう此上野ゝ世桜　草津 如三子

虻乃縫ハむすめ乃持尚の児桜　関氏 知之

一枝もおるさけやさけ見さくら　松橋氏 吉重

枝々を筋かひ橋の江戸さくら　膳所住 佳巳

一枝やお利生ひぬる伊勢桜　駿州住 不珍

小川乃方の枝やおくれる名残咲くら　勢州津 一交

吹風にをちく石の乱散さくら　一村氏 良三

宿かへといふ気咲き本の名残桜　殿村氏 敬徳

姥桜花むかしまとひ見さくら　肥後 積恵

清水にて

花乃瀧みる三筋乃糸やはなせんど　寺本氏 直政

急ほしいさたまるゝ柳さくらど　姫路 三晨

目路かきりて庭ハ西山はなさくられ　播州明石 方考

花軍の語らいおさへり遅さくら　遠州中村住 恭遠

夕乃日ゐるを我愛するや児桜　光治工 愚鈍

吹風にちらるゝハあはんぎや嬉さくら　勝氏 勝成

花のさかに二世の契めり伊勢桜　和州今井中次氏 一卜

桜田のさいめや早さくれ糸さくら　大坂河村氏 家次

何ぬるはおもしろ見ハたゞ児桜　植松氏　重次

佛前のひとへ桜や出見ぬ哉　清水氏　愚心

折事や町家もちらぬ家桜　窪氏　定次

花見とて往来や多き都桜　窪氏　行貞

児桜ちるは大道そへぬる哉　大坂若林氏　良久

積出す歌絵や多き家ざくら　嵯峨住　子銈

咲り見ぬとかん雲井桜哉　阿形氏　直詠

見事さハ世にほめる桜かれ　吉野下市　正圓

露にぬれや月も出ける哉けふ　播州　義知

尾張路の花さく大山桜かれ　竹井氏　常久

米桜や折たく釜のたきゝい哉　伊与松山住　宗利

子ともも山路きけく見る哉けふ　白井氏　重經

児桜折ハよくわりほんぬの歌　伊与松山住　良信

ちる為にはなさくうす桜　懐恵於　離雲

花ハ氣も茱萸艶乃おくさ哉　伊芳氏　良里

そゝやくちる花さきかゝり八乃緒　江戸　林康

面白き盛り月見残りすく歌桜　大坂塩屋　友近

ふる乃風さそ金平の町の花や桜　伏見住　一納

色の名はいつ迄桜ハこい浅黄　江戸 恭次

花や孫名ハ咲きこそすれ　肥後ゟ行る 恵吟

雨乃ふる風をひ本乞ひ姥桜　進藤氏 世恥

月はくもるきと風揃のも桜　江戸中山氏 親時

折人を桜川なり烏帽子桜哉　大坂住 清次

ためすりあん風やすミつ丹羽に糸桜　播州 歎之

伊勢桜ハ回縁かれや一奇ハ変　三井氏 近次

見たき秋人は癸巳業はそら　江戸莨原氏 義昭

営るとあいする人かやくさそら　一村氏 良三

八重一重ゟ四季ふぼしや糸桜　池田氏 基春

火桜やけす掲られき花のな　濃州 清里

短冊や床のうけ方の歌はらら　三川吉田 愚侍

おさあひハ肩熊谷はなお見ル　石橋氏 重知

地形より枝つきたるを世家桜　姫路小川氏 元武

奇てみくほそれやし糸桜　赤尾氏 重宗

ち風時と咲かせよするや糸桜　尾州住 如琢

咲ぬ折やきまんり八も此代の春　尾張藩侍 之也

寺はおしなへ未れ桜や見あぐま　茨木氏 無味

氣よはらハ引て也座せとも桜　摂州池田住　正次

ちらする店や新酒家く桜　肥前　如自

咲用まや生き洩き木れ兒桜　大坂住　為昌

桜田よ合力まいり茶屋るき　備前　時明

櫻田乃木こんちる見し花の風　備前　俊安

桜田や江戸の殿子れ出そうけ　摂州今津　不定

小桜や秋のころと云花咲　室州中村住　恭遠

家はたらく風自て三盛やすらむらひ　山口氏　栄之

兒桜茶乃紙茶や常盤　脖　伏見住　重尚

昼ハ日照る見やも照二日草　凡舩子　定重

櫻鯛
付　桜貝　桜苔　若和布

櫻鯛いたくハおれと塩蒸ぶ　勢州松坂　是望

櫻鯛海と川との瀬切り那　凡舩子　定重

云乃葉やはよ胃指さくら鯛　摂州西宮　良ト

とふてらやもれよ付縄さくら鯛　大坂住　貞冨

洩き木これハ桑ハよもへ乃里桜鯛　南都　利番

梢りやうるまうふちゃさくら鯛　村上氏　生信

撈網着て我里の八入る端　小山氏　重尚

末座ん〳〵や花や海色なきて網　摂州今津　不必

かんなよ曉く出すやはなつ網　肥後熊本　信辰

大海や釣をえらまねはなつ網　勢州松坂　三寛

小ごり汲や色摑ごゝ乃撈網　摂州西宮　良卜

きれいに残く目乃出る撈網　窪氏　行貞

よんまい小おろすや子れき撈網　摂州今津　不必

給ひるや海山色にはなつ網　高田氏　政久

魚乃ゆれも臭釣乃かなはなつ網　三井氏　近次

さのみ弦尾筒よはせて撈網　播州完粟　道益

撈網乃流きかゝるしかれ鰹　播州完粟　正信

岩壁梳よ盛てや出す撈網　摂州西宮　良卜

撈網ハ出力欲よき世なる良之か　大坂住　満永

おゝるわを波小そ立法撈乃里　伊予松山　幸重

かりしおくよ降ハ瀬りはなつのか　伊勢松坂　良雅

かゝるといふよ付くやさ鞍のか　肥後住　金門

煩悩乃海よ生るや心よく着和布　播州完粟　正林

出されなみて文字よそれする櫻貝　福井氏　宗次

桜乃里ハされそと人の数乃うち　姫路 正舎

あれなる里と名とこ称かされ桜乃里　吉田氏 以三

よふ里あふや右浪乃方へ里ゆめ浪　尾州 昌徳

ねて此世をきしてよそや伊勢わくめ　大坂住 如春

う浪と川もうろと出たる里桜乃里　竹井氏 常久

すゞ深乃あふやおらひて行そらのわ　江戸蜂こ子 貞宣

浦てみるハ懐筆はふく桜鯛　江戸中岩氏 親時

海竹ハ花垣あるるのちそう貝

花筆下知ゑてふけとかそう貝　泉州 恭遠

花よめる名ハ称れきり桜貝　大坂住 安永

かう泥よりわ海士ぶ[illegible]よ世とと桜貝　大坂 満永

花とこ浪乃あうびや行そう貝　凡船子 定重

返田

蛙もかくなハしろよ法く鳴るふ　播州完栗 道益

田かへすやなハしろ黒ハ海ぶ粉　播州完栗 正林

人そとやみうなハしろはなハおとし　江戸住 長尚

苗代乃矢種や本能かる里口　肥後 能等

種物や雨くんと時色へ荷ふ八代　進藤氏　世耻

打そふる道そゝや秋のよせか雨り　姫路　一千

役に田械返すや世界国土民　政勝

雨まきて逆田三段く澄まで往　大坂天満　正後

小山正信寺に雨晴て

法乃種まき紀ひろまるや正田地　村上氏　生信

砧きゝて出お返す田ゝひかれ　姫路　三吉

秋ひろ跡見事と物くする田中水　大坂　浦永

雨くや人の命といやし苗代種　風船子　定重

三日草　付曲水　桃花　草餅　塩干　雛合

姫桃乃壺装束や酒沽瓶　中川氏　喜雲

孫ふ心良持て嘉ふゝ桃の酒　江戸嫁々子　貞宣

捨らぬくおうそれや元ん母桃の酒　紀州継井　一入子

みち後世になるてふ桃の酒盛ぶ　姫路住　一千

角くさ汁揚ちするは勝香り桃乃酒　伊藤氏　信徳

花やすいてちげき路りてよまと桃　風船子　定重

是布そよ縁しい花や生比酒　伊予松山　宗利

岸根尓や仙家の花乃桃乃尓　三井氏　近次

猿も人も猿尓なりり桃の酒　伊勢山田　武珍

一日も三日尓むりふ花句乃礼　大坂住　良久

曲水乃流とく年や盃祈詩　伊予松山　静集

みちとせ年なるい古酒也や桃の酒　座尾氏　忠俊

あり[illegible]咲きまくりやさしも草の餅　江戸住　恭次

花の餅とすむる酒や数盃桃　備前岡山　良庵

曲水の酒を忘いる年や詩の中詩　山下氏　正信

曲水はこん意とせむや酒は友　伏見住　正房

曲水よ早く趣向はうりて詩　肥後　金門

酒瓶もう年も也年乃なりれは　大坂住　友昌

花なりも桑り桃歟白ひ采那　南都竹村氏　俊静

祖師なりて仙とい川て開く桃のい　何方子　倫貞

へふ汲い桃乃小ひゝやく比酒宴は　廿友氏　貞就

曲水乃ゆりきい信の蒔絵乃礼　摂州天満　正俊

かしいまや誂つき餅よ香あわせ　肥後　金門

とゝ桃もとりあくすいそふ花句は　姫路住　秀昌

盃や桃李一盃んまく酒　友光

句と風の二度思ひする班女桃　一村氏　良三

まむ云れ心ハ河とまの桃ふ　坂本住　俊盈

枝折そ火桃もちけふ添れ　榎並氏　貞富

曲水そ盃とまろて詩ぶ　伏見住　友世

作る酒や曲ふ神も此酒更　姫路住　三春

酒ふ留まるたの已站目やたくれ　姫路住　政次

本乃本ま三成人やひろ色ハ桃ぶ　矢嶋氏　末次

花ま風とにそふんや店まる桃　進友氏　世耻

曲水站猪声もことの色此字ぶ　定重

みちおくま咲や貞桃むぎ桃ぶ　初列　勝秀

光てうや尚ちとの桃乃ゑ見ん酒　三列吉田住　愚侍

ろふひゐ光やちくらを孫と志ぶ場　一午

若木おも名そ白桃乃盛ぶ　江戸山手　ノ志

伯乃江汐干ま
塩引ハあれおまろや孫すくれ　午列松山　一景

曲水ま當座乃作や巴字ハ詩　伏見住　見性

頬の巻きろねと三月草站餅　播列曽孫　貞継

鳥合ぬまのゝでやうゑなふ丸　伏見住 正房

鞠ならて曲水も河乃わらひ汁　三井氏 近次

一くんまたしぬ節見や半夏の桃　和州 勝秀

春ひとつや乙乃つりぬ渕浜かな　大坂住 範子

禁中ふ乃ふハ鳥あハ言句の礼　姫路住 三春

浅ゝね人をあちぬる中なり蓬餅　濃州竹ヶ鼻 深政

浅きこれハきれ子に抱こ飛ぐ草乃餅　勢州松坂 文友

桃の酒や又献ぬ迄酒とたの塩干　播州完粟 正林

住吉も魚すゝふく紀塩干汁　窪氏 行貞

蓬餅ふむ孫のやくれハやつこ汁　大坂佐渡氏 如士

汁塩も乙ふ孫く高ふと三千代草　尾州名古屋 重貞

住吉社塩干や四社乃明神秘　摂州住 正利

雛事やなくしたら草餅わさひ　伊予松山 一景

かり中へ入るひかりハ草餅餅　勢州鈴鹿 業政

住吉乃塩もひいるみ汁言句ふれ　姫路住 正儀

三ヶ月や草より出く草餅　月岡氏 枝見

君か為いとハつまる気とか紀餅　大坂住 親房

桃の酒よ酔ぬる人や猩上巳　姫路住 外交

楪浦乃孫ゑゝ値ゝ志らん玉那　山下氏　竹葉

去栄ありひいなとしてやおそ藪入　阿形氏　直入

勝て啼ハ時の面目鶯ゝゑる合　三川吉田　愚侍

ゑる合乃庭人群集し当ぬ午　伊予松山　一景

つ邦ぬ内よ咎めるやちやほうのゑる合　伏見住　友世

すけぞ艘や身ぬけもゐるゑる合　人見氏　良忠

歯春寺ちハ孤よそめちん鳥わ谷　凡船子　定重

木蓮をそ言葉よあるは桃毛ぶ

捨ひどるハいゐんく乃塩干ぶ　同

雲雀

とりえとて細と喰山よひばりかな　穴津氏　行貞

北方ぬ見えぬる貝やうハひばり　上原氏　重道

吹るハ実雲どのあるひばりかな　大坂　芳昌

おりても志らで吹へつる雲雀かな　大坂　納信

心空ふありしやゑる啼雲雀　三州吉田　愚侍

麦ぬ野ふなりね雲雀や雲ぬ入　尾州　清親

と啼わねるひ乃本ぬ枝の梢雀かな　凡船子　定重

勝尾山二階堂にて

二階堂乃山や雲雀ハおのれ口　俺心子　梅盛

春鷹

はるゝなく継尾の鷹や君かため　姬路　一千

鷂鷹ハ遊ひて鳥や身川の時　備前　良菴

鳥ハさられ志ゐてめいりくや鷂鷹也　和州下市　正信

代々のかゝや継尾の岩のつゞき　尾州　之也

それ鷹のとり来いつくとはさ志る尾　江戸　恭次

金鳥とる鷂鷹や一羽とて　播州宍粟　正林

鷂鷹ハ鵜鳥あれや作りの時　江戸螺ミ子　貞宣

鴨と游ハ夕乃岸あすき鷂鷹哉　凡舩子　定重

巣鳥

河くと囀るなる鳥の子　三川吉田　愚侍

門乃上ニ踊ぶ雀やかふたの子　姬路　一千

巣立するや秋ハ隣まで村雀　座尾氏　重俊

逆あれや子を父とよぶ親すゞめ　播州　秀昌

巣立しやどこもかしこも山鳥　肥前 如自
とらるゝや啼声乃ほか村雀の子　進藤氏 世恥
ちと鳴やまうとまゐる雀の子　尼崎住 氏亮
偕愛せんおや川のなくも呼子どれ　姫路 元利
老鳴の数をあけくや百千鳥　肥後坚志田住 惟定
皆よぶは孫かうらうの巣乃子かな　福井氏 宗次
鳥の巣乃ことくやう桜屋の注連飾　播州 吉光
ちよいとさいさとれ棹の先きの雀　石橋氏 重知
出え声はいきてきやし抱雉乃子　山中氏 有恵

出る日は西の鳥[illegible]するうちかれ　大坂 正春
父母こそ古巣もなや雀の子　凡船子の 定童

燕

わが家の軒や燕乃巣のまろさん　江戸中山氏 親時
子は待つはひなの軒すまおりたえの巣　姫路 一イ
組あける子安の塔の先も燕乃巣　紀州長浜住 一入子
[illegible]　高野山 杏山
軒乃先にも巣作りけとのほとかれ　長谷川氏 一元

巣城の風日あたるも落ちざらんす　高野山　性観

巣離るゝ子燕そら渡る所やつばさ哉　三刎吉田　愚侍

早くふ三風や声けて花流てうるめ　上有子　政時

子ふ?うにあやり巣離肉のつくえ乃　麦刈白次加麦　城坂

燕乃流え絶え巣ゝ?よ花もちけし　内海氏　安重

帰雁

雁るちりて其よや雁離山鳴きよ　膳所茂木氏　任巳

心より雲よ帰ませや雁よ雁　世耻子　利政

扨いまや花よりかよふり曲る雁　備前笠岡村　信明

打帰るへい太鼓乃撥ゟ二本雁　伊予松山　一景

花をほりて出ち行雁や猶去りて　大坂伊勢屋　為重

いさかへ其ら帰されあかりと其雁　欸苑氏　貞就

帰るふ道も成て雁去きえと二世　伏見中堂氏　一直

江南へ行流くしてや加へふかり　松坂唐光寺　乙山

それまいて帰るとふや天津雁　坂本矢倉氏　覚壽

咲花も梟てあしろよ帰雁手那　上有子　政時

道さかりも帰ふ山へ此ろし路　姫路小川氏　元武

いつはまの花や書や哭をとゝを世
姫路吉田氏 利重

されば萬代やつかの金花帰洛哉
金谷氏 友光

帰らぬ馬や山をゑふくしるかな
大坂 木刀

花ぞ根に帰るかたかな花に依ぞ
舟橋氏 吉重

去は會者花に定雛の帰る馬
伊賀名張住 久重

まんざわやおつ仏立て心色添ゆかな
江州彦根住 正為

帰る馬もきぬぐなき花の形馬哉
窪氏 行貞

心こそれ羽風も花に梅るかな
阿波安芸住 未了

おし哭どもどてましなくば梅香哉
僧 良菴

雉子

むくまでや丸焼となる雉子ひとつ雉
江戸梅松子 拙口

飼雉子は藤まつけゐるかなくな
江戸赤坂住 水元

雉子なまへは小蛇必滅の声ひとつ
伊予 静集

嶺をしつて雉子の声なるやなるなすな
秋扇子 詠翔

かれても啼は夢んや雉の声
肥前佐賀 重昌

雉やあをこびとすての茶すなる
阿州上牧 元寄

やきて雉やわりねおおなる肴
阿州松坂 交友

ちるいろも先てやきんだ雉か妻　　光堂　愚純

雉子の尾も焼るゝもしらぬ　　田中氏　正元

声くとおきるいろにさしめし烏　　大坂住　清次

山茶はまたく咲きて　　福井氏　宗次

雉子も山路うしろを父母衣かな　　小山下氏　正信

子路は雉子声や蝿蟷をさんの書園　　風弘子　定重

草路や声は啼雉やむさし野のび

蝶

蝶乃舞は錦をまとふや花乃色　　大坂若林氏　良久

風まかせあひまはりまはる胡蝶かな　　伏見住　重尚

ちるは花を追ふまで舞越る蝶　　堺吉光子　以尊

縁は花乃蝶ぞ手向の舞楽かな　　播州宍粟　正林

花のかをひそまつ花に小蝶かな　　播州豊田氏　正至

蝶乃舞は扇といはんいちのかな　　三州吉田住　愚侍

四天宵ぞ萬華楽子蝶乃舞　　羽田氏　貞就

花の咲西域にせき蝶乃舞　　大坂住　貞富

負とあとはいてきや蝶とふ乃浪　　膳所家木氏　任巳

潤なくて飛ぶは何ぞ胡蝶哉　芳岡氏 貞就

二ツ連ハ舞かなふ處こそ乙女哉　嵯峨住 子愁

舞におもる所付蝶やきんなき能　小山氏 重高

春乃山を返雪乃舞の花胡蝶　三井氏 近次

絶すに花に舞へりとなま四季の蝶　阿形氏 直糸

蛙

井戸よりも飛出の音しきくハ蛙哉　江戸岡村氏 不卜

諸聲や口はしらぬもある鳴蛙　摂州松坂 三信

泥よりも文字もさんつる尼蛙　播州若狭村 吉光

口まよりも鳴や蛙よ鳴蛙　松坂住 是望

苗代の蛙ハ廉りよみちられ　和州今西 正盛

の山ハ鬼一くちあハ我蛙三郎　松坂住 加友

わしあひ蛙や軍ありかへる川　摂州平野 勝政

尼蛙きてやすゝめへき衣川　摂州平野 一重

住よし我岸に蛙や奇枕　大坂住 宗清

うきふしをねまま我蛙の軍哉　江戸大坪氏 言輔

軍まけて川へ身をなる蛙哉　小淫氏 行貞

云こすり蛙乃声もなしふる川　江戸 田村氏 不卜

井乃水や濁して澄ぬ河の蟇　新山氏 市香府 益英

こやの池ごやくふおし蛙かれ　伏見住 友世

ほへりてみりや声とよみえぬ　加賀金沢 松露 恭次

時あかや唐人乃池ノ鳴蛙　風紅子 定重

猫妻戀

妻ふ逢猫や多生ぬえんの下　伏見行上住 易晴

妻恋ふよ猫も垂の目ハ前に　播州姫路 元武

妻とふ河の瀬うくとれく猫ぬ声　江戸 独笑斎 一志

踏ちらし落合猫や新乃ほま　三州吉田 愚侍

ふたわするわりの妻恋乃猫もに　小村氏 正則

至孫乃様を猫の妻とや恋ぬ山　姫路住 正俊

妻恋をやまし抱うれ女猫に　大坂住 如喜

かくれあひ猫を妻まやわいたこま　伊予松山 宗利

恋ひする猫も人目やさのひつま　吉田 中村 泰遠

生成出くこゑは猫や妻ぬる　風紅子 定重

躑躅

花よ風ハうきてきちらく咲縁の礼
三川吉田松下氏 元澄

花ならハやまも世く花も世く餅洗し
播州曽祢 吉光

猿まゐるまおハ海志る洗しけり
宮崎氏 重利

口よあけて目まハわのわ也餅洗し
大坂狛氏十三歳 幸延

ひらふ洗もこてや庭をらん餅つし
伊予西条住 舩笑

花斧ハ食餘有らし餅洗し
播州曽祢 吉光

こ脇く雲や背よ好さうわく岩つゝし
草津 如三子

見ん楢えくくつれかく脇や岩つゝし
肥後 金門

雲さく花の洗き山有れや岩洗し
姫路 一元

梅洗てるわる岩躑躅咲縁の都
同孫子 定重

藤

花乃棧もおそ門田子咲落見けり
同孫子 定重

田子咲らく不升出くみる也落鯨
勢州松坂 加友

咲さやさのゝ木海の世松乃藤
江戸住 黍次

浪く落平よび琴咲きの松乃風
江戸住 枕安

真ハ心のうけかためるや松乃花　膳所　任巳

風乃手やのひき乃世ハ花は花　伏見　重尚

松乃花やさて白妙は波　播州完粟　正林

咲てられをわすれにかれ花の宿　岩服門弥　正花

右乃肩へまされかと思ふは花　播州西五百住　正至

浪乃手よ無き魚も花は発句所　大坂住　是等

雲は波ハ石根ありて花は雲　播州完粟　幸森

花も風もおさめたる花ハ棚　姫路寺沢氏　義知

花房はかさなるや藤乃波うら　京田氏　集半

花ハ風やさらにあく月は乃わ花　大坂西本氏　義紀

すゝしくはまるハ花乃かげやか　姫路　秀昌

氣乃へしやかゝる正徳まれ乃藤　和州下田村空般　葦葉

花畠ハ呉服町とさもよ晴れ哉　姫路

呉服町乃うしろ紫や花は雲　一千

かくされハすそ引や花は春の宵　江戸大坪氏　高濤

咲花も雨よ野田川や花の枝　江戸?村氏　不卜

歎冬

繪にかきて興も金なれや数多花　三ツ川氏 近次

花ならハ山ぶ桟橋のあるゝ[illegible]　同 海氏 安重

海棠

見る人や道外みちて風海棠花　大坂 茂昌

冬も香もけさからぞや花の色　姫路 重行

海棠ハ道より香あれ里花也　姫路 梓字

よこかへ乃色やさかあひかゝ海棠　高砂山 杏山

茂原乃陰に散る川や於ん海棠　和州 勝秀

海棠をむすびとちるや散过風　大坂 納信

ゆくをこ風に戒たり外にまちり　菊照氏 貞盛

香醫道の花外盛や氣乃薬　凡弘子 定重

梨花

人斗久し枝に梨花外は風ぶ乱　芸州三木氏 文右

声なしてて白すくさけや梨花ひと花　姫路武田氏 三吉

氣をとむや嵐乃折を梨花　肥陽 金門

見るは花や雨の月も抱でハあし秋の空　大坂清水氏 清次

色ぎんへもで包見ん哉するやいとけ無　河州布忍 重清

辛夷

思ふこぶしざいとやいへん花軍　成遠

荻ふかと孫ちお母そるこぶし哉　南坂住 利番

花の香も日を指折りるやこぶし哉　泉州松沢 三信

春月

入月てやまさ母田毎秋の月ならし　姫路 三吉

笠めすハむかわや冬見月　兵庫住 氏亮

梅すてゝすゑ花ハ月も朧月　内田氏 平吉

物陰乃雪紅ひの季や朧ほど　泉州蒋中一 森月

若鮎

流れともや岩の間さき小鮎哉　江戸 泰次

網の目にかゝ浦かゝりめね小鮎かな　大坂 清次

骨もとも好身の気をむや水子鮎　森川氏 酒三

急いやりと大淵乃玉ぬけにあゆみけり　千岐坊 正金

家ちかて簀貝乃中へはるふ鮎哉　風紅子 定重

猟師のはと紛るゝ鮎すゝめるとて

蓑子ハ其まゝとて鮎乃猟師哉　作心子 梅盛

新茶

戌乃時にゑめのて新茶やいのち　山口氏 栄之

云よりもねわらひ茶や以心傳新茶　備州完栗 道益

振すてゝ世も即菩提志ん茶哉　江州小幡住吉井氏 不白

ちひ孫や一両きて宇治乃新茶哉　摂州九絶住 兼豊

摘ことちよは縁ゝ口ほきて茶哉　伏見住 友世

春時鳥

季ぬまつ人の音ハめつらし時鳥　風紅子 定重

毎かく待様や音ぬ田長鳥　勢州松坂住 三信

音に啼足をもなれぬ中皆鳥　江戸蝶々子 貞宣

花乃春よおけり老茶子親鳥哉　伊予松山 良信

永日

春の日ハ蝶蝶も永き命かな　播州宍粟 當栄

咲乃世の影くらくさかな永き日の光　奥州米沢住 義知

永き日に咲足すや常の春　宮崎氏 重利

午の時とうしにすへる春日かな　鳳谷 定重

一日ちる花と春の日さきに暮て　姫路 三之

去後とりそへき春の日暮けれ　伊井氏 信徳

春興 付春寒

花まで咲きぬそれはなさけそ菊　江戸西田氏 泰次

高麗菊風の匂ひや雪のきたりし面　大坂住 茂昌

陸の春や露の手まねの皺革　三井氏 近次

ちりくと花淡おかし皺子　江戸住 義重

咲ほまでんとこみちんの院　江戸住 不卜

咲そめて乃梅をおわいつ　大坂 満永

人の人もつまり他世む金銭　杏山

山乃あら庵はつやきするや春の字　江戸岡村氏 不卜

金銀を佗てひゆらはゐ花ひんの　膳所住 善良

新子織り新米罷るゐ金銀の　山城案植氏 卜琴

花はえ成はすつをこえれや金銀の　風虎子 定重

よ雨を音の句よりをこれや金銀も　伊予松山 一景

山の根は芽えてたゆゐや春のけ　大坂住 玄也

青草の日に露奈風作く　懐恵軒 離雲

雨と日は是やアゆをく金銀の　森川氏 酒三

角と山は芦とあらえふくさきら　加州金沢住 方信

角組とふ行や雨は芦庵とひ　内海氏 安重

濱も原も津雲もむ芦は家　風虎子 定重

けふへ筆はすきの用佗ゆくし　大坂住 友清

正家や佗ある去は筆たち　大坂住 義純

毛は野者の山乃あら庵　小谷氏 貞友

小刀でいまむく佗すき哉　姫路住 元利

あは雪は中に咲やきてまさ　膳所 任巳

あそこ家へ佗の盤乃形　三州吉田 愚侍

咲しもなき花や見へぬ(?)葉　和州 勝秀

春日野で摘もたらぬかすみれ哉　伏見中坂氏　一直

あしらせて店先見る人の野老哉　大坂住　是等

無人はかゝる小出ぬり筆つくし　大坂平田氏　如花

名残も絶すたる東のかき土筆　大坂天満　正俊

けむり残もきよあの荻や生わし　石橋氏　重知

賤乃めやち残ほるやしに土筆　伏見　友世

幸里やとのこもつむあんの花　摂州住吉　正利

鶯て婦きいぬおつとあわきな　阿形氏　直入

咲まてや雛遊は花のえゑ　肥後　金門

蝶団は河辺のあるか金銭花　伊予松山　宗利

うへしうへは早乙女草せく苗代時　姫路住　一竹

いさとかやすこもわとなるひさし哉　駿河小林氏　訳羽

名乃草も雨後見き出る薬哉　伏見住　良設

山手や咲乱れし花はすゝ花袖　芳州松坂　正長

金銭花咲袖しとを百両　江戸住　泰次

宝鐸の露ちる見ける九輪草　肥後　一直

咲るまよ西縁は水様乃流く野老さ　備州児栗　正林

春乃野や十日むすかまよへ若菜　風弘子　定重

雑春

きたしまいけふ正月は継木哉　泉州森下氏　定則

田子はしら〱に井ゆて〱ふいびきは　勢州松坂　交友

取残やよ山も流れしわり絶うわ　勢州松坂　良雅

足拍子たふの川出てわや雲は霧　摂州池田住　一知

ほうひきそとかほけ雲の捨ひ　小井氏　正則

匂ひのねくきねは小紋や韈形　大坂住　知伯

塵乃世ま交成釋迦や出才拭　播州宍栗　玄甫

雲れ日くほしいひとも寺や小米花　江戸弥田　秀長

廻文　舩中まて

ういの身ハ悪まま孫にまよ雲れ礙　出羽岩根住清水氏　重徳

廻文

中陸も空乃海は白銀と平なり　摂州五百住豊田氏　道水

綿まして桜や仕立成かいる袖　尾張子　定重

風流やは出てくまわの成花哉　江州小幡吉井氏　不白

学文乃恩業やおんの外は雲　長持氏　政昌

若くし衆は諸人よろふや西出新儀　南紀竹村氏　後静

弘法へまゐりける堂出新作　風紅子　定重

一度二度三斗もこそや小米返　同

ほとおちる汗をしまふや出す拭　壺列　恭遠

あり有ハ舟出光りや御身拭　宮崎氏　重利

念佛にやまねやほとせんだんのふ　三州吉田　愚侍

念佛哉まつさんまつりや法然忌　同

逆ふする礼儀も甚ハ順義の礼　大坂住　良久

礼拝そ佛前導乃忌日の新　三井氏　近次

甚乃若おこれぞ文年二酒ぞこれ　丹波氏　貞就

わくるとも青のかいふくに緑かな　安藝広島右橋住　矢代

菱もめハ海慶抜ほきもけくれ　同

論玉寺や追善導忌れ出帛　風紅子　定重

作に綿も六七八把棄子の礼　同

むこ山のたけるれや甚れ雨　山口氏　栄之

ひまし乃花哉運長久花の時　内海氏　安重

暮春

哉見ると野ぞ花山ぞ花乃甚也景　稀好軒　慈敬

去年や庵守よ以乃春は花　三州吉田　愚侍

春も花は鐘やちんくゑんや切　江戸蟻三子　貞宜

あすはいつと初春はらくあくしきも　肥前佐嘉　實延

耳嫩さけ三月志んき鐘の音　大坂住　如莊

名残おし春は行とていつく　江戸住　長尚

自来や以つも三月志ん孔堂　加州髙田氏　撞次

以つまでゝ春ハ三重尾と限りけり　江戸上野　枕友

三月は晦日や家子大嵐　佗心子　梅風